

2010（平成 22）年度 在宅医療助成指定公募

「ケアマネジャーを対象とした在宅医療の研修」完了報告書

ヒューマン・リレーションで質の高い在宅医療を目指す研修会
(社会性・理性・感性をケアマネジメントに活かすヒューマン・リレーションプログラム)

口腔介護とケアマネジメント研究会 代表 遠藤慶子

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による

1. 助成申請目的

1) 口腔介護とケアマネジメント研究会の今までの活動と新たな役割

ケアマネジメントの中で口腔ケアも見落としとしてはならない重要な視点であるとの思いで口腔介護を普及するために介護保険法が制定された翌年 1998 年 10 月に「口腔介護とケアマネジメント研究会」を立ち上げた。この研究会のミッションは、二つある。一つには介護保険制度施行までにケアマネジメントの手法を多くの人取得することとそれまでは後回しにされていた口腔介護を在宅医療の現場で活かせる知識と技術を他職種と一緒に考えるネットワークづくりであった。そこで川崎市の歯科医師を中心に保健師、看護師、歯科衛生士、介護福祉士等同じ志をもつ人たちが集まり地域の勉強会から始まった。この研究会では、1) 高齢者の健康相談サービスの実践、2) 口腔介護を含めた健康教育に関する講習会の開催 3) 在宅高齢者・障害者の口腔介護に関する調査研究 4) 口腔介護を含めた健康教育に関する広報活動 5) 口腔介護を含めた健康教育の普及・啓発のための地域活動への講師派遣等の事業を行ってきている。

この活動は、1998 年から①～④の研究助成を受けて進められている。

①1998 年度社会福祉・医療事業団長寿社会福祉基金（特別分）「在宅高齢者の介護歯科と相談サービス実践事業」、②1999 年度財団法人大同生命厚生事業団（地域保健福祉研究助成）「在宅高齢者の口腔介護とケアマネジメント実践事業」、③2003 年度独立行政法人福祉医療機構長寿社会福祉基金（特別分）「テュートリアル方式での口腔介護実践事業」、④2005 年度独立行政法人福祉医療機構長寿社会（特別分）「閉じこもり高齢者へのチームアプローチ推進事業」

成果物として小冊子『いつまでも美味しく食べるための 10 箇条』を作成するなど積極的に歯科から在宅介護にアプローチしてきた。この小冊子は、わかりやすさに重点を置いたこともあり、中央法規出版の介護技術の中にも取り入れられた。

この研究会ができた当時より高齢化が急速に進む中、介護を受けながら在宅生活を継続する高齢者は年々増加した状態も重度化している。介護保険法が 2 度目の改正のこの時期に更なる質の高い在宅医療を目指し、ケアマネジャーの教育にヒューマン・リレーションの構築を期待している。それは医療・福祉の知識や技術だけでなく、ケアマネジャーが豊かな人間性を持ち心の面で多くのことを学び、考え、気づけることが重要な時代となっている。

そこで今回勇美記念財団の助成を受けてこれから在宅医療の核となるケアマネジャーを対象とし社会性・理性・感性をケアマネジメントに活かすヒューマン・リレーションプログラムとして 5 回の研究会を企画した。

2) 研修会の日程と内容

2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災によって代表者も2度にわたり東北地方に介護支援専門員としてボランティアに出かけた。そこで今回の震災体験を踏まえ、ケアマネジャーに何が必要であるかを考え予定を組み換えることにした。外部講師の研修会を3回と東日本大震災に出かけた口腔介護とケアマネジメント研究会メンバーの体験談を2回行うことにした。

① ケアプラン作成の基本的考え方Ⅰ

日程：2011年8月23日（火） 13：00～17：00

会場：大山街道ふるさと館 イベントホール

講師：武蔵野大学現代社会学部教授 佐藤信人氏

内容 「結局、ケアマネジャーは何をやるのでしょうか？」

一人の利用者の幸せな生活のために、家族や友人や隣近所の人たち、そして、いろいろな専門職が、それぞれ、どんなふうに、その人の役に立てるか。それを考えて、こうした人々を結びつけ、しかも「力」を引き出していくことなのではないでしょうか。ケアマネジャーは人と人を結びつける「接着剤」のようなものなのです。決して「サービスを組み合わせる」ではありません。サービスを行う「人々」を結びつけ、人々の「力」を結びつけるのです。

② ケアプラン作成の基本的考え方Ⅱ

日程：2012年2月12日（日）13：00～17：00

会場：溝口駅前デイサービスセンター

講師：武蔵野大学現代社会学部教授 佐藤信人氏

内容：「個別性のあるケアプランの作成」

グループワークを行い、2事例を丁寧に検証していった。

③ 在宅医療での「平穏死」を考える

日程：2012年2月23日（木）18：00～21：00

会場：溝口駅前デイサービスセンター

講師：特別養護老人ホーム「芦花ホーム」の常勤配置医 石飛幸三氏

内容：「終末期の高齢者には、穏やかな最期を！」

『平穏死』のすすめ（講談社）に書かれている内容をスライドを使用し、何故そのように考えるにいたったのかを今までの経過と結果を説明した。

- ④ 東日本大震災を通じて感じたことと介護支援専門員の役割
日程：2011年7月24日（日）13：00～17：00
会場：溝口駅前デイサービスセンター
講師：口腔介護とケアマネジメント研究会 代表 遠藤慶子
内容：「東日本大震災での介護支援専門員ボランティアの実際」
- ⑤ 東日本大震災と神奈川県防災～介護支援専門員の役割
日程：2011年9月25日（日）13：00～17：00
会場：溝口駅前デイサービスセンター
講師：口腔介護とケアマネジメント研究会 代表 遠藤慶子
内容：「震災に備えての介護支援専門員の役割」

3) 2回の学会発表

- ①日本ケアマネジメント学会（2011年6月16・17日）、
②日本介護福祉学会（2011年9月17・18日）
で発表した。

これからのケアマネジャーが以上の5回の研修を受けることにより、豊かな人間性と創造的な知識と技術を身につけ、在宅医療に今後最も重要となるヒューマン・リレーションが構築できるような試みであった。最初に平成24年4月の介護保険制度改正にあたり、新しい医療・介護の連携を地域包括ケアを目指す前に、再度介護保険制度誕生時の本来の意味について、介護保険制度の父と言われている元厚生労働省老人福祉計画官、大臣官房政策課課長補佐、介護保険制度施行準備室室長補佐、介護支援専門官、地域福祉課課長補佐である佐藤信人先生に2回ご登壇いただき、介護支援専門員が“一人の利用者の幸せな生活”を再考することができた。また石飛幸三先生には、現在在宅で介護支援専門員が当面している「利用者が口から食べられなくなったら、どうするのか」という問題について学ぶことができた。女川・石巻に出かけてきた介護支援専門員の体験を聞くことにより、今後の神奈川県防災についても取り組むことが必要なことが分かった。

研修会に参加することだけでなく、介護支援専門員が学会発表をすることにより、ケアマネジャーの学際的な学会参加のファシリテーターとなることもできた。